



# この人に



株式会社 河地鉄工 (多治見市姫町 7-192)

代表取締役

 **河地勝彦氏 (53歳)**

インタビュー ● 担当副会長：加藤誠二 ● 広報委員長：高垣守宏 ● 副委員長：松井啓至

## 御社の概要を教えてください。

機械鉄工の会社で、建物というよりは設備を造っています。リサイクルプラントや焼却場のプラント、ベルトコンベヤーなどです。近年では、東日本大震災復興関係のお仕事もさせて頂いております。

設計は主にメーカーさんがされますので図面をいただき、ものづくりそして現地での据え付けを行っています。

## 何代目ですか？

私は2代目です。父は国鉄マンでしたが、40歳を前にして何を思ったか突然脱サラして起業しました。もちろん母は大反対でしたが、一番目の社員になり一緒に現場に行っていました。一人で畑違いの仕事をしたわけですから苦労はしたと思いますが、いろいろ皆さんに教えて

いただきながら、日々の仕事を淡々とこなしていったようです。

はじめは車庫や倉庫を手掛けていましたが、他の鉄工所には到底太刀打ちできませんので、機械・設備に移行していきました。機械・設備ですとメンテナンスや更新があって、注文が途切れないということもありました。

4年間名古屋の機械プラント製作所に勉強に行ってから、河地鉄工に入社しました。

## 扱っている商品が大きいので、広い土地が必要ですね。

以前は、富士見工場で作って、駄知工場で塗装して、生田工場で組付けて出荷していましたが、令和元年、会社を姫町一カ所に集約移転しましたので、輸送リスクや時間的なロスが軽減され大変合理化できました。敷地は多治見市と可児市にまたがり約1万2千坪あります。東京ドー



ム1個分くらいですかね。またそれまでの工場跡地を活用しようと不動産事業も立ち上げました。

令和3年12月20日の新聞でクボタの全面広告にプラントが大きく載っています。河地鉄工の名前はどこにも書いてありませんが、全て当社で造らせていただいたプラントです。いわゆるゴミのリサイクルプラントなのですが、30年前にはゴミのプラントが新聞の一面を飾るなんて考えられなかったですね。

## SDGsについてどう思われますか？

昔はダンプカーを走らせていましたがダンプだと多くのCO<sub>2</sub>が出るので、脱炭素の観点から電気化させて、今はベルトコンベヤーを走らせています。横浜にある全長3.5kmのベルトコンベヤーはトンネル工事が出た石や土を分別し、石はもう一度生コンに入れて使います。ゴミは分別すれば資源になります。

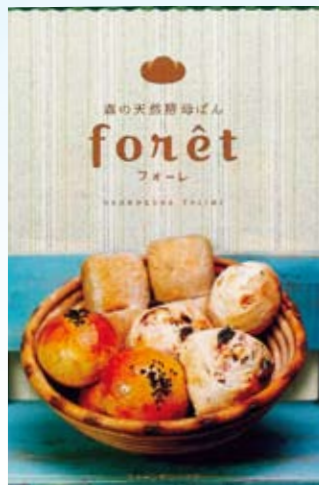
当社の転機となったのは東日本大震災です。被災地で、がれきは一般廃棄物になるため各自治体のゴミ処理場で処理されるのですが、膨大な量もさることながら、がれきの中には石や土もあれば鉄くずや燃える物もあり、選別に困難を極めていました。そこで選別プラントの設置を任せられました。こういう環境エンジニアリングの仕事は、脱炭素・循環型社会への時流も後押しして急増し、当社もそれに追従しています。

そういう意味で、今「世の中から追い風をいただいている状況」ですね。

## 地域の活性化・地域との関わりについて、お伺いします。

パン屋を始めました。森の天然酵母パン「フォーレ」です。多治見の甘原で採れたいちごの酵母からつくったパンです。酵母を仕込んでから完成までに4日かかり数も限られていますが、近ごろはコアなファンも増えてきました。地元の企業さんと一緒に地域を活性化するために立ち上げました。中津川のチコリ村とまではいきませんが、ゆくゆくは地域の人が働ける場所になればいいなと思います。

それと、皆さんは「棒の手」という民族芸能をご存じでしょうか？愛知県に広くありますが、私の地元にも「小木棒の手」という岐阜県の重要無形民俗文化財があり、私はその伝承者でもあるんですよ。



## 趣味、健康法を教えてください。

ゴルフと自転車です。自転車で琵琶湖を一周しました。健康法としては仕事終わりに会社の敷地内を毎日約1時間ランニングすることです。12kmぐらいあります。食事は好きな物を好きなだけ食べますよ、お酒は飲みませんけどね。



## 座右の銘は？

壁に額がありますが、『行動』です。まずは動きましょ、それから考える。

初めての注文でも、とりあえず「はい、わかりました」と受けます。わからないことはネットワークがありますから相談し何とかやれるようにします。3軒たどればどこかでできる、誰かが教えてくれます。赤字・黒字はやってみてから。もし赤字でもお客さんは喜んでくれていますので、次の注文がもらえます。当社はリピート率90%なんですよ。ありがたいことです。







## 今後の展望についてはどうですか？

鉄工所としては、今後は水環境にも関わっていきたいと考えています。浄化センターや水処理の仕事を少しずつやらせていただくと、幅をもてるのかなと思います。

地域活性化としては、パン屋のほかに野菜づくりも始めました。マイクロ野菜ですが水耕ではなく土で作っていますので味が濃いですよ。こちらも地元の皆さんとこれから頑張っていきたいと思っています。当社創業の地に近い諏訪町は、人が少なく少子高齢化が進んでいます。地区を活性化するためには、まず知ってもらい、人に来てもらい、ゆくゆくは住んでもらいたいと考えています。ですからあえて街中ではなく辺りな三郷地区(諏訪町・甘原町・三の倉町)に、パン屋を開店しました。

映画「バック・トゥ・ザ・フューチャー」のデロリアン(タイムトラベルをするために改造された車)は、最初とてつもない電力を消費して時空を飛びますが、シリーズ2作目ではバナナの皮などのゴミを燃料にするように変更されています。

今はまだそこまで技術が進んでいませんので、今しばらくはこの状態で仕事をやっていけるんじゃないかと思っています。

## 最後に、法人会員として思うことはありますか？

法人会に入って税金の大切さを勉強しています。少しでも多く納税し社会貢献できるように頑張ります！

社長室には趣味のサイクリング自転車が置いてありました。玄関や応接室には陶芸家の安藤工氏の作品が多く置かれ、同年である自分も頑張らなければと、常に刺激を受けているそうです。「皆さんのおかげです、ありがとうございます」と何度も言われ、とても謙虚な河地社長さんのお人柄が印象に残ったインタビューでした。

